



МИНИСТЕРСТВО КУЛЬТУРЫ
РОССИЙСКОЙ ФЕДЕРАЦИИ

ロシア文化フェスティバル
Festival of Russian Culture in Japan 2019
2019 IN JAPAN

Министерство культуры
и спорта Российской Федерации
Государственный музей
ГЭС имени В.И. Ленина

現代ロシアのアート展 現代ロシアの 写実主義絵画



芸術至上主義の 現代ロシア 写実主義絵画

F.V. シャパーエフ
《故郷・コヤジマ河の夕べ》

1991年 油彩・画布 90cm x 120cm

この命題は、御多分にもれず、当作品にも当てはまります。ボルガ河に注ぐコヤジマ河の河畔は、人々に豊かな暮らしをもたらす穀倉地帯です(州都で12世紀に栄えた古都ウラジーミル市はモスクワの東200kmに位置)。この絵の広大で美しい田園風景からは、大自然に溶け込んで営まれる農民生活のゆったりしたリズムが伝わって来て、故郷を懐かしむ画家の想いを感じ取ることができます。

東京吉祥寺

ストーンウエル アートギャラリー

館長:石井徳男

アクセス:「吉祥寺駅」公園口より小田急バスで約15分、「新川」で停留所下車、徒歩5分

2019年 **6月**オープン!

6月1日(土)・2日(日)
オープニング
記念セレモニー
開催(非公開)

主催:(株)ストーンウエルコーポレーション
(代表 見川千恵子)
後援:ロシア文化フェスティバル日本組織委員会
ロシア連邦文化省
駐日ロシア連邦大使館
協力:日本ロシア芸術愛好協会

6月5日(水)
より一般公開

美術館は、当面、水曜、土曜、日曜の週3日開館
開室時間:10:30~17:00
入室は閉室の30分前まで
入場料:800円(大学生までの学生600円)

※詳細はストーンウエルアートギャラリー公式サイトでご確認ください。
現在準備中。それまでは館長のホームページを参照
URL: <http://www.ishii-gallery.com>

ロシア 写実主義絵画への お誘い

現代ロシア写実主義絵画(前者)は、1932年ソ連芸術家同盟の発足時、1870年～90年に全盛期を迎えた写実主義絵画(後者)を国が国策として奨励したことにより復興します。後者がロシア社会の後進性を作品テーマにしたことから「批判的リアリズム」と称されるのに対し、前者は時代の要請を反映して社会主義建設をテーマにした写実主義の風景画等を描き、「社会主義リアリズム」と呼ばれています。しかし、半世紀に亘り特異な発展を遂げたその絵画も、ペレストロイカが始まる前の80年代初頭には、時代の気分を先取りして、描写対象は一般的な風景画や静物画に変わり、イデオロギー色の全く感じさせない絵画になっていました。

当美術館のコレクションは、主に最初のモスクワ駐在時(1989年より4年間)、館長自ら芸術家同盟傘下の画廊で蒐集したものです。西側世界にほとんど知られていない現代ロシア絵画の魅力をお楽しみください。

所蔵コレクション：236点(2018年9月現在)

I.P. ルビンスキー 《夏の夕べ》

1991年 油彩・画布 60cm x 120 cm

ロシアの人々が1,2か月休暇を取って、郊外のダーチャで一夏の日光浴を楽しむことを習慣としているのも、冬が長く太陽が滅多に顔を出さないためですが、この絵にも昼の光と見紛う程の夕日に照らされた田園風景が詩情豊かに描かれ、その習慣が絵の背景にあるのが解ります。



V.A. サフォーノフ 《夏》

1980年 油彩・画布 60.5cm x 91cm

画家在住の地ポドリスク(モスクワの南35km)の沼を絵の中心に据えたこの作品は、対角線交差の構図になっています。一見雑然とした夏の田園風景の中老婆、水汲み場、小屋の相互関係に整然とした安定感があるのは、このためです。



N.Ya. ベリヤーエフ 《円卓のバラ》

1991年 油彩・画布 70 cm x 60cm

静物の形状のリアルさを伝える色の見事なバランスのみならず、切り取ったばかりの新鮮さを表す花の色彩の強さに、思わず眼が引き寄せられます。それが、先の世界大戦で利き腕の右手を失い、左手でカムバックした作者によって描かれた絵というのですから、驚きです。



現代ロシア 写実主義 絵画展

東京吉祥寺

ストーンウエル
アートギャラリー